

## 浜辺の食用植物の脱変異原性について

○小原章裕, 松久次雄, 森 一雄\* (名城大, \*兵庫大短大)

(目的) 海岸沿いに生育している野草の中には, くこ, いそがき, よもぎ, ぼうふう, おかひじき等現在でも食用に供されているものが多い。これら植物は, その特異な生育条件から有用な成分を含んでいる可能性が高い。今回は, よもぎを中心に変異原物質に対する抑制因子について検討することにした。

(方法) 脱変異原活性の測定は, Ames testの矢作らの変法によった。変異原物質は Trp-P1 (+S9) と1-ニトロピレン (-S9) を, 菌株は S. typhimurium TA98を用いた。活性を示した画分に対しては各種クロマトグラフィーに供し, 活性成分の精製を試みた。

(結果及び考察) くこ, いそがき, よもぎ, ぼうふう, おかひじきの水抽出物については, それぞれ40~95%の脱変異原活性を示した。特に活性の高かったよもぎの脱変異原成分を精製する目的で, 70%アセトン抽出物を極性の異なるヘキサン, ベンゼン, 酢酸エチルで順次抽出し脱変異原活性を測定したところ, ヘキサン画分で45%, ベンゼン画分で65%, 酢酸エチル画分で60%とベンゼン画分および酢酸エチル画分に強い活性が認められた。そこで, 両抽出物について酸性, 中性, 塩基性画分に分離し, さらにSephadex LH-20や逆相等各種クロマトグラフィーに供し, 活性成分の本体を明らかにしようとして試みている。